（AL 関連の実践）【高校/英語】
アクティブラーニングによる技能統合型学習を目指して

一ノ瀬憲二（長崎県立長崎東高等学校）

溝上のコメントは最後にあります

対象授業

・**授業**：高校３年生国際科　異文化理解（２単位）
・**生徒**：２クラス（３９名、４２名）
・**教材**：自作プリント
・**内容**：①１時間目：即興ディベートの説明と事前準備
◆論題①：“Doraemon should go back to the world of the 22nd century.”
②２時間目：即興ディベート（ジャッジを含む）の練習（論題①）
③３時間目：即興ディベート（協働学習【RWLS】）
◆論題②：“All the vending machines in Nagasaki Higashi High School should be removed.”
④４時間目：エッセイライティング（個による内化【ＲＷ】）
◆テーマ：When you walk around Nagasaki city, you will find so many vending machines available on streets.　Discuss their advantages and disadvantages in 100 words or more.
⑤５時間目：エッセイをペアやクラスで共有（外化【ＲＷＬＳ】）

はじめに

本校は 2015 年度よりスーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の指定を受け，以下５つの研究開発単位を設定しています。

Ⅰ　長崎の視点からグローバルな課題を考察させるプログラム開発
Ⅱ　グループ型探究学習のプログラム開発
Ⅲ　コミュニケーション力、発信力を育成するプログラム開発
Ⅳ　アクティブラーニングを取り入れた授業を実践するプログラム開発
Ⅴ　英語によるコミュニケーション能力を向上させるプログラム開発

英語科では，上記ⅣおよびⅤのプログラム開発を継続しています。2016 年の７月に溝上先生をお招きし，第１回授業研究会を開催しました。溝上先生には国語と英語の研究授業を参観していただき，ご講演と研究授業への指導助言を賜りました。その時の授業内容（高校２年国際科を対象）を次にまとめています。

活　　動	内　　容	備　　考
①　新出語の内化・外化（ペア活動）	生徒Ａが新出語の定義を英語で述べる。生徒Ｂはその新出語を答える。	２語ずつで役割を交代する。

② 新出表現・文法事項の内化・外化 （ペア活動）	宿題として新出表現等を用いた英文（２文）を辞書を用いて作成させておく。 生徒Ａが英文を読みあげる。 生徒Ｂは即興で応答する。	２文ずつで役割を交代する。
③ 本文の内化・外化 （個による活動と一斉活動）	150wpm 以内で内容を確認しながら音読させる。次にＣＤ音声を流しながら所々でＣＤを止める。止めたところから指導者が指示した語数をさかのぼって答える。	
④ ペアプレゼンテーション（２組）とＱＡ	貧困や食糧難を扱った本文の内容（Table For Two）と関連するテーマを取り上げたペアプレゼンテーションと質疑応答を行う。	聞き手はコメントシートを記入し，発表を評価する。
⑤ ペアディスカッション	本文と関連するオープンクエスチョンを聴き，ペアでディスカッションする。（Suggest a plan to collect donations at school so that we can help the TFT project.）	
⑥ 指導者（日本人教師とネイティブ講師）によるまとめ	本時を総括する。	

写真１　新出語の内化・外化（ペア活動）の様子　　写真２　ペアプレゼンテーションの様子

溝上先生からは，単にプレゼンテーションで終わるのではなく，質疑応答やオープンクエスチョンまで発展できていた点を評価していただきました。一方，指示の多くがネイティブ講師からなされていたため，日本人教師（私）の役割が不明であったことをご指摘いただきました。また，最後の授業のまとめがプレゼンテーションへのフィードバックのみになってしまったので，クラスや授業全体のまとめを行うようご助言いただきました。

その後，溝上先生による指導助言を実践するとともに，私自身の反省を込めながら，高校３年生では「即興ディベート」に挑戦しました。スピーキングを Production（暗記したものを発表す

る力）と Interaction（即興でやりとりする力）に細分化すると，プレゼンテーションは前者，即興ディベートは主として後者のスキルを伸ばすための活動と位置づけられます。特に４技能が統合されるように試行錯誤した実践例をご紹介いたします。

第１節　授業の目標

即興ディベートの活動では，本校ＡＬ型授業のスローガン「ともに学び、自ら深める、　　」のうち，「ともに学び」の部分に焦点を当てました。ディベート後の活動として，「長崎の街にたくさん自動販売機が設置されていることの長所と短所」について 100 語以上のエッセイを書かせました。即興ディベートによるスピーキング（リスニング）活動からライティング活動へ系統的に発展させることをねらいにしたためです。ディベート活動でインプット・アウトプットした内容や言語材料を振り返り（再内化），エッセイにまとめていきます。この再内化は，スローガンの「自ら深める、」に当たる部分です。また，英語理解の授業で採用している教科書（VISION QUEST English ExpressionⅡ　啓林館）の「対比」表現を参考にさせました。「ともに学び、自ら深める、　　」のスペース部分（本校では『将来へのトランジション』を表し，個々の教員が考えることにしています）は，「地元」の現状を考えさせることで社会的な課題や実生活と関連させ，「○○すべきだ」と提言できる力を涵養したいと考えました。こうした活動はＳＧＨ課題研究の根幹とも一致するものです。

第２節　授業の流れと活動の目的

①１時間目

１年次と２年次に実施したアカデミックディベートとの違いを以下のとおり説明しました。

- 即興ディベート（Improvised / Parliament Debate）では，論題の発表は授業の冒頭
- 準備時間は１５分
- リサーチ／エビデンスの情報収集の必要なし
- 個人の経験や知識，一般常識を例に出してわかりやすく説明すること
- 論理や内容だけでなく，伝え方（ジェスチャー，声，説明の方法など）を含めて勝敗は判断（ルーブリックによるジャッジペーパー配付）
- 発話は相手チームではなく，聴衆（ジャッジ）へ向けること

その後，論題①を提示しプリントに沿ってチームで準備させました。プリントには教師によるモデルを言語材料として提示し，そのモデル文を参考にチームで英文を作成していきました。以下は，モデル文の一部です。

⑩肯定側反駁②（Affimative Side Second Rebuttal）1 minute
“The negative side argues that thanks to Doraemon, Nobita becomes independent.　But we believe without Doraemon, Nobita would be more independent because he would have to get over many difficulties by himself…”

②２時間目（練習）

即興ディベートの進め方とジャッジの観点（ルーブリック）について再教示し，初めての即興ディベートを実施しました。生徒も楽しみながら取り組んでいる様子でした。

③３時間目（本番）

目的：①限られた時間で求められる内容を瞬発的に英語で表現し，入試英作文にも対応する力を養う。
②批判的思考力（多面的に物事をとらえ，多様な意見に向き合う力）を養う。

（０）事前準備

前時と同じ４～６人のチームを作り，以下Ａ～Ｅの役割分担を決めさせます。４人チームの場合はＡがＢを兼ね，６人班の場合はC’を置き２人で交互に質問させます。

Ａ　立論（１分）
Ｂ　質問への回答（１分）
Ｃ　質問（１分）
（C‘）　質問（１分）
Ｄ　反駁①（１分）
Ｅ　反駁②（１分）

（１）論題発表

All the vending machines in Nagasaki Higashi High School should be removed.

（２）準備１５分

・約４０人が約２０人ずつ（約５人×４チーム）２教室に分かれます。
・事前に配付された教師によるモデル文を掲載したプリントを活用します。
・日本語の使用も許可します。

以下は教師によるモデル文の一部です。

⑧否定側反駁①（Negative Side First Rebuttal）1 minute
※立論で述べなかった理由を新たに持ち出してはいけない
※相手の主張の弱点やこちらの主張の強みを「具体例」や「異なる視点」で述べ、立論を補強する
“The affirmative side argues that the vending machines use too much electricity.　It is of course true, but thanks to the machines, we can enjoy cold drinks in summer and hot ones in winter.　We can refresh ourselves.　In addition, few students use the water coolers in winter.

（３）即興ディベート開始

・教員がタブレット等で時間を明示して進行します。

◆３－６教室（進行：一ノ瀬）

①[Group A: Affirmative Side] VS [Group B: Negative Side]
Group C と Group D はジャッジ
進行教員（Moderator）からのコメント

②[Group C: Affirmative Side] VS [Group D: Negative Side]
Group A と Group B はジャッジ
進行教員（Moderator）からのコメント

◆英語教室（担当：Matthew）

①[Group E: Affirmative Side] VS [Group F: Negative Side]
Group G と Group H はジャッジ
進行教員（Moderator）からのコメント

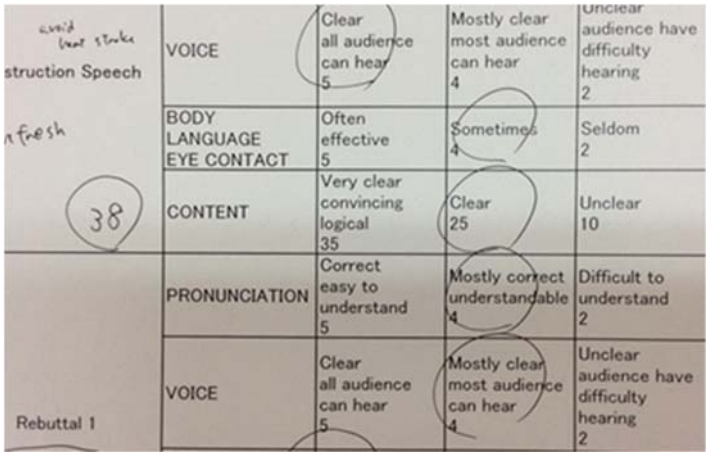
②[Group G: Affirmative Side] VS [Group H: Negative Side]
Group E と Group F はジャッジ
進行教員（Moderator）からのコメント

写真３　授業風景

第３節　アクティブラーニングへの工夫

（１）ルーブリックを用いたジャッジペーパー

立論および反駁①と反駁②を評価（審査）するために，発音，声量，ジェスチャー，内容の４項目に関するルーブリック（ジャッジペーパー）を作成しました。事前に配付しておくことで，高得点をとるためにチーム内で学び合いやサポートする態度が見られました。進行役の教員も同じルーブリックで審査し，その後の定期考査の評価の一部としました。



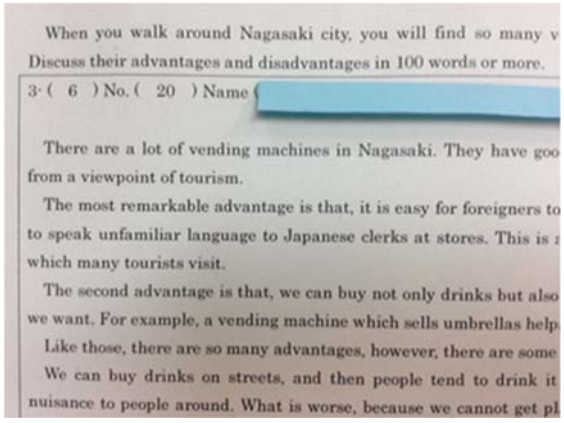
struction Speech	VOICE	Clear all audience can hear 5	Mostly clear most audience can hear 4	Unclear audience have difficulty hearing 2
	BODY LANGUAGE EYE CONTACT	Often effective 5	Sometimes 4	Seldom 2
38	CONTENT	Very clear convincing logical 35	Clear 25	Unclear 10
	PRONUNCIATION	Correct easy to understand 5	Mostly correct understandable 4	Difficult to understand 2
Rebuttal 1	VOICE	Clear all audience can hear 5	Mostly clear most audience can hear 4	Unclear audience have difficulty hearing 2

写真４　ルーブリック（審査用紙）の一部

写真５　学び合いの様子

（２）複数回の内化と外化

自作プリント中の教師モデル文は，あえてやや難度の高い英文を掲載しました。生徒達はこのモデル文を参考（内化）に，個のレベルに合わせて易しい英文に書き換えたり，自分たちのオリジナルの英文を準備したうえでディベート（外化）に取り組みました。ディベート中も相手チームの論点を聴いたり，メモを取ったりするなどのインプットが行われていました。さらに，エッセイライティングを課すことで学習内容を振り返るよう意図しました。まとめとしてエッセイをペアやグループ内で発表させ，内容や表現の良さを出し合いました。



When you walk around Nagasaki city, you will find so many v
Discuss their advantages and disadvantages in 100 words or more.
3-（ 6 ）No.（ 20 ）Name（

There are a lot of vending machines in Nagasaki. They have goo
from a viewpoint of tourism.
The most remarkable advantage is that, it is easy for foreigners to
to speak unfamiliar language to Japanese clerks at stores. This is
which many tourists visit.
The second advantage is that, we can buy not only drinks but also
we want. For example, a vending machine which sells umbrellas help
Like those, there are so many advantages, however, there are some
We can buy drinks on streets, and then people tend to drink it
nuisance to people around. What is worse, because we cannot get pl

写真６　エッセイの一部

第４節　今回の振り返り

約４０名のクラスを２つに分け，日本人英語教員とネイティブ教員をそれぞれに Moderator として配置しました。このことで学習者への指示や授業運営が責任を持って行われるメリットが生じました。また，一部の生徒によるプレゼンテーションよりも活動への主体的参加が促され，自己の役割を果たそうとする積極的な姿勢が見られました。事前に配付したルーブリックによって評価規準を明確化し，ピア評価を実施することもできました。さらに他チームをジャッジしメモをとることで様々な視点を批判的に考えることができたのではと推察します。

ディベートの次の活動としてエッセイライティングに取り組ませました。すべての生徒が 100 語以上のエッセイを提出し，72%の生徒が 150 語以上、39%の生徒が 200 語以上記述できました。このことはディベートによりインプット・アウトプットしたものを振り返るとともに，実際にどのような種類の自販機がどのような場所に設置されているかを自主的にリサーチすることができたためであると考えます。校内の自販機をスタートに，長崎市内の自販機へと地域や社会について考えさせる契機になったと思います。

第５節　今後の課題

教師側が改善すべき点としてルーブリックによる審査の問題が挙げられます。ルーブリックを細かく設定しすぎたため審査時間が想定よりも長くかかってしまいました。また，今回は個人の力量が問われる反駁よりもチームで協働して作成する立論に採点のウエイトを置きましたが，「即興性」を評価するのであれば反駁により大きなウエイトを置いた方がよかったのではと反省しました。今後ルーブリック（ジャッジペーパー）全体をシンプルにする，あるいは反駁に特化したものを取り入れ，スムーズに活動をファシリテートしたいと思います。

生徒は即興で話すことにまだ慣れておらず，発表の持ち時間を余してしまうことが多かったです。しかし今後もこのような系統的アウトプット活動を継続し，スピーキングの即興性を高めながら４技能の育成を図りたいと思います。

溝上のコメント

・　私が公開授業を見学したとき、生徒の「前に出てきて発表」が英語でおこなわれ（写真２）、聞き手の生徒から自発的に、「即興」で質問が英語でなされる（下記の写真）場面があった。事前に作り込まれた棒読みの質問を聞かされることがあるが、そんなものではない。英語表現に不十分な箇所があっても生徒は堂々と質問をおこない、発表者もその場で考えた「即興」のリプライをおこなった。とてもすばらしい場面であった。

- この場面が、単にできる生徒同士のやりとりだけでなく、より全体の活動になれば発展的である。このページで一ノ瀬教諭が紹介する「即興ディベート」はこのような文脈で理解すれば、教諭のねらいがよく理解される。
- 本質的には、4 技能統合型の構造を目指した英語学習の授業である。にもかかわらず、「即興」「ディベート」の活動と、「長崎の街の自動販売機」という身近な社会への活用問題を構造として組み込み、取り組みのチャンネルを増やして、英語学習だけでなく、資質・能力の育成、地域・社会への関心など、さまざまな力や態度・関心を育てようとしている。しかも、個ー協働ー個 / 内化ー外化ー内化の学習プロセスをしっかりとっているので、いわゆるペーパー学力もしっかり習得できるようにデザインされている。学びが多層的で、すばらしい。
- ルーブリックを用いたジャッジペーパー（第３節）は、逆向き設計の視点をとり入れたものである。つまり、最後におこなう評価の観点を先に生徒に示して、評価の観点を内面化させ、その観点に基づいた学習活動を促すのである。評価の観点があらかじめ明示されているので、生徒の学習活動が教師の期待する方向で構造化され営まれる。これは、即興ディベートのこの授業だけでなく、どのような科目の、どのような単元学習においても有効な方法である。全国の教師に是非学んでほしい。

【参考ページ】

- ✓ （桐蔭学園）前に出てきて発表
- ✓ （桐蔭学園）個→協働→個の学習サイクル

【参考文献】

- ✓ 西岡加名恵（編）(2008). 逆向き設計で確かな学力を保障する　明治図書
- ✓ ウィギンズ, G.・マクタイ, J.（著）　西岡加名恵（訳）(2012). 理解をもたらすカリキュラム設計ー「逆向き設計」の理論と方法ー　日本標準

プロファイル

- **一ノ瀬憲二（いちのせ けんじ）@長崎県立長崎東高等学校**
- 一言：生徒が主体的に学び、他者と協働して思考を深め、英語によるコミュニケーション力を高めるＡＬ型授業を実践しています。受験学力も担保しつつ４技能を統合して育成できる授業開発を研究しています。